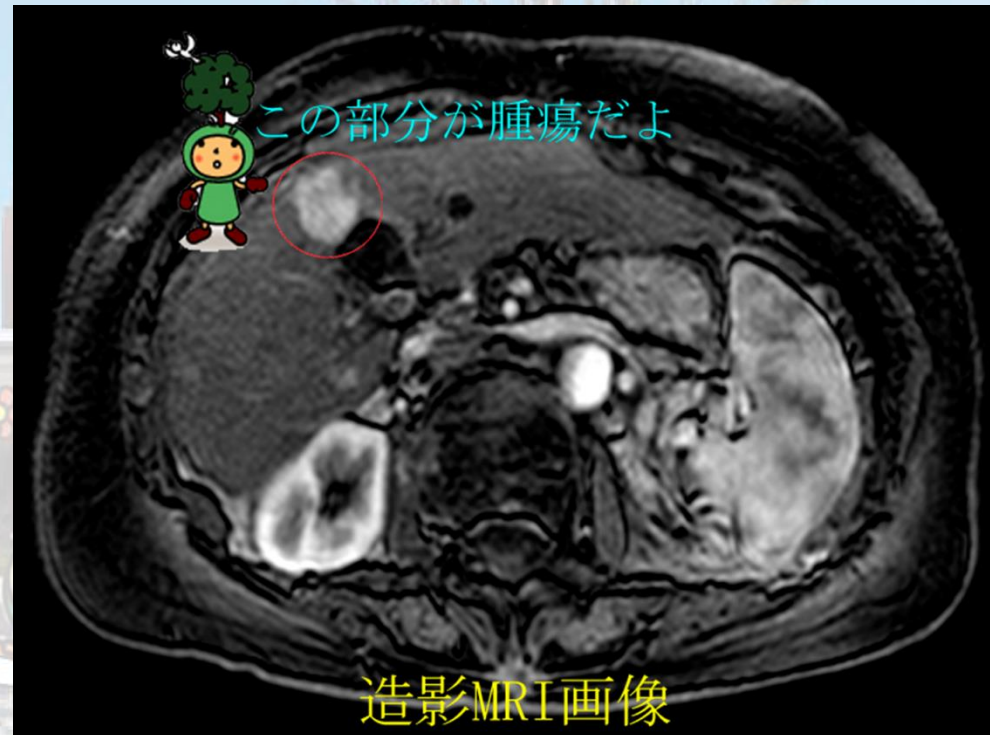


肝動脈塞栓療法 TAE・TACE



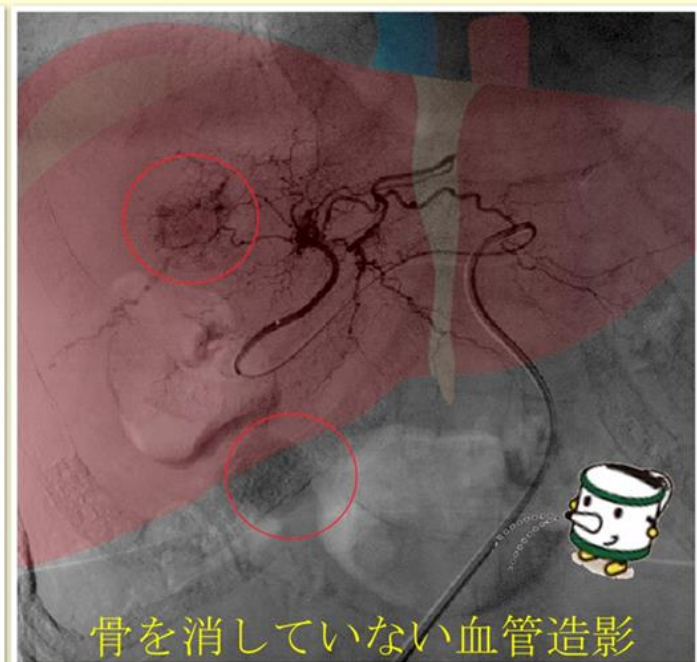
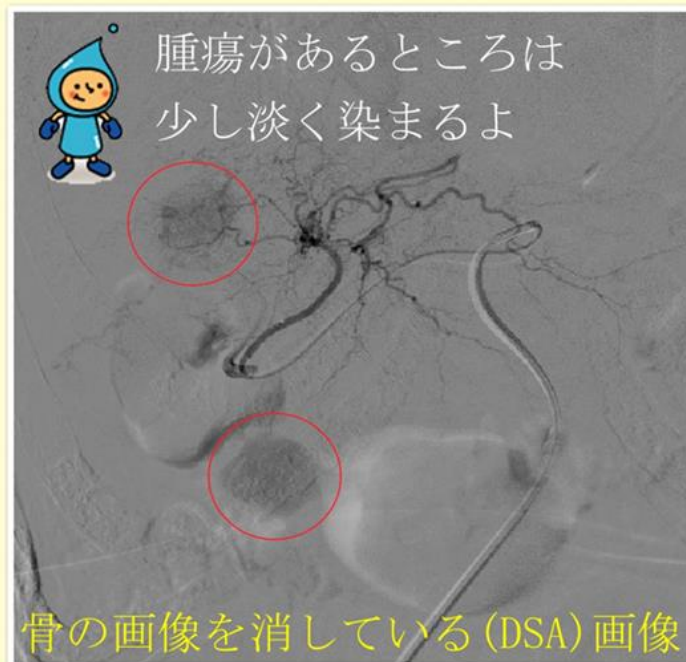
肝動脈塞栓療法とは

肝動脈塞栓療法(TAE)及び肝動脈化学塞栓療法(TACE)は、がん細胞(腫瘍)に酸素や栄養を提供している肝動脈を塞いで、選択的に肝細胞がんを壊死させる方法です。



TAEの特徴

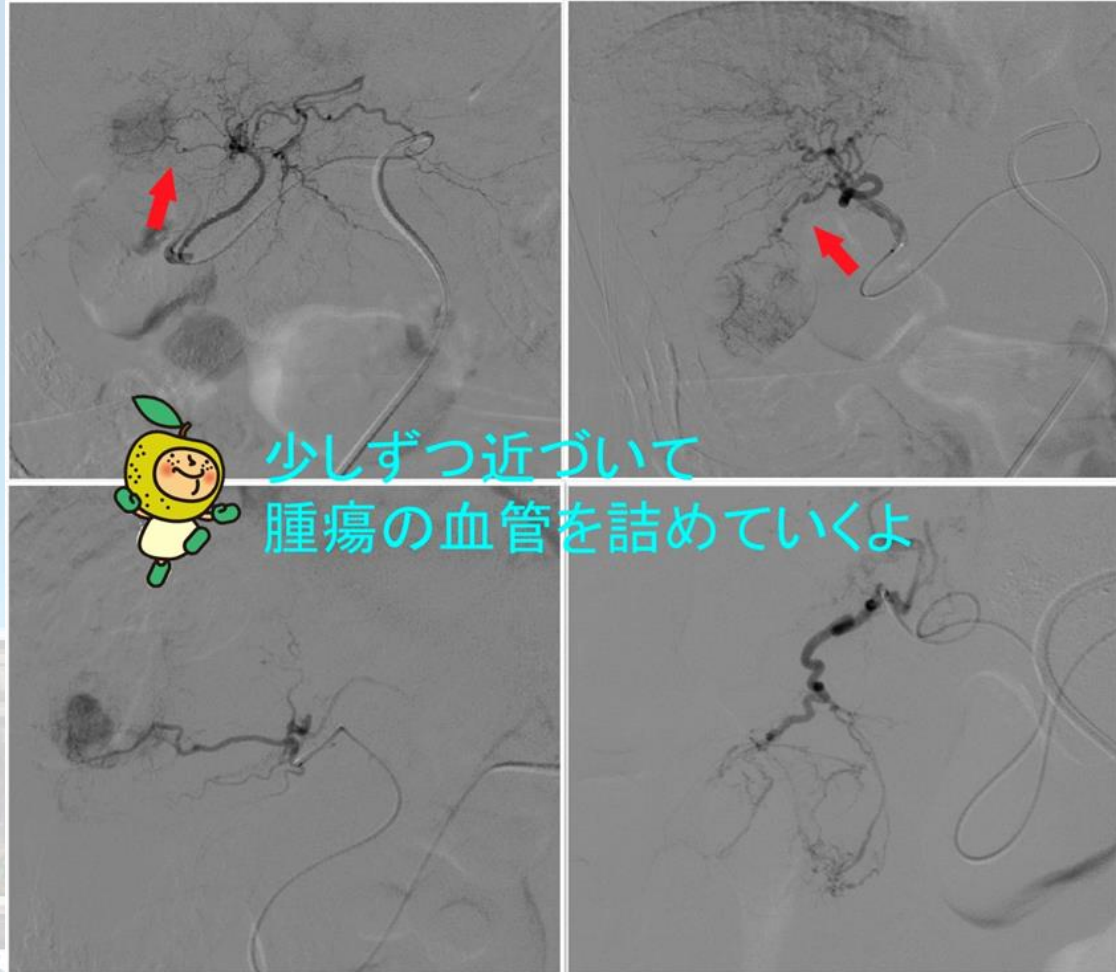
肝臓は肝動脈と門脈という2つの血管から栄養されています。正常な肝細胞は門脈から、肝細胞がんは肝動脈から主に栄養を受けているため、肝動脈のみを塞栓すれば癌のみを壊死させ、最小限のダメージですみます。



検査の流れ

動脈からカテーテルという細い管を差込み、そこから塞栓物質（ゼラチンスポンジ、ビーズ）を注入し、動脈を詰まらせます。

ゼラチンスポンジは2週間程度でなくなります。



検査後の注意点

- 副作用として腹痛、吐き気、発熱、食欲不振等があります。
- 外科的手術に比べ低侵襲的で傷も少ないです。カテーテルを入れるために、そけい部に5～10mm程度の小さな傷ができますが、それ以外身体に傷は残りません。
- TAEのみで癌が完治するのは難しく、繰り返し行って癌を押しえ込む形になります。